ゼロメートル地帯を広範囲に抱える江戸川区における 流域治水対策を求める意見書

貴会におかれましては、日頃より利根川水系及び荒川水系の総合的な治水・利水対策にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

江戸川、中川、荒川は、政治・経済の中核機能が集中する首都圏を貫流する重要な河川であり、ひとたび氾濫すれば、我が国の社会経済活動に対しても計り知れない影響を与えます。

江戸川区はこれらの河川沿川に位置しゼロメートル地帯を広範囲に抱えており、大規模水害により浸水する可能性のある地域に約50万人以上が住んでいます。

令和元年東日本台風では、荒川の熊谷水位観測所、治水橋水位観測所などにおいて観測史上最高を上回る水位を記録し、上流部の荒川水系越辺川、都幾川の堤防決壊、越水による外水氾濫が発生しました。下流部においても氾濫危険水位に迫る状況であり、幸いにも洪水はおきませんでした。多くの区民が強い危機感から避難を実施しました。

近年は、気候変動による台風の激化・巨大化、豪雨の頻発化・激甚化、海面上昇が進み、懸念される水害（洪水、高潮）リスクがこれまで以上に増大し、顕在化しています。

このような水害を未然に防止することが治水の要諦であり、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を減少させる「流域治水」を着実に進めることが重要であると考えます。

江戸川区では、広域避難の取り組みや広域的な自治体間連携による防災行動等の上下流連携、ソフト対策による減災の取り組みを一層進めてまいりますが、大規模水害から人命を守り、社会経済的被害を回避するためには、国政としてさらなる流域治水を推進していただくことが極めて重要と考えます。

今般、令和5年6月の台風2号に伴う前線の活発化による大雨の影響で中川の吉川水位観測所では、氾濫危険水位に達しました。中川の負担を軽減し、下流域のまちを守るため、その水を江戸川へ排水する三郷排水機場のポンプ設備の数台が一時停止し、正常に機能しなかった事象が発生し、本区への影響や治水上の役割の重要性について認識を深く改めたところです。

よって、江戸川区議会は、国土交通省に対し、ゼロメートル地帯を広範囲に抱える江戸川区における流域治水対策として、荒川第二・第三調節池整備事業や京成本線荒川橋梁架替事業などの抜本的な治水対策に加え、広域避難を推進するための高台まちづくりや浸水継続時間の短縮化等の取り組みを国・都・区のあらゆる関係各部局が連携協働して流域治水に取り組む体制づくりと、上流域における既設排水施設等の老朽化対策や多重化、機能確保等、さらに、これらの取り組みをスピード感を持って強力に推進するためのアフター5カ年加速化対策を含む継続的・安定的な予算確保と人員強化の実現を強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

令和5年6月30日

江戸川区議会議長 藤澤進一

国土交通大臣 あて